

# in Pocket⑨

～110カメラ雑記帳～



---

特集：110新フィルム登場

---

◎デュアルパトローネ◎

2020 spring

## 110フィルムが増殖した

フジ・コダックが製造を止めて11年経つ2020年。なんと、新しい110フィルムが登場した。

それが嬉しくなって、GWコミケに合わせて110カメラの本を作ろうと思ったのだが、例のナニがアレでコミケが中止になってしまったので、その予定していた新刊の内容から、フィルムの部分だけ抜き出して本を作ってしまった結果がこんな感じのぺらい本（のデータ）なのである。まあ、話半分に読んでいただければ幸いである。

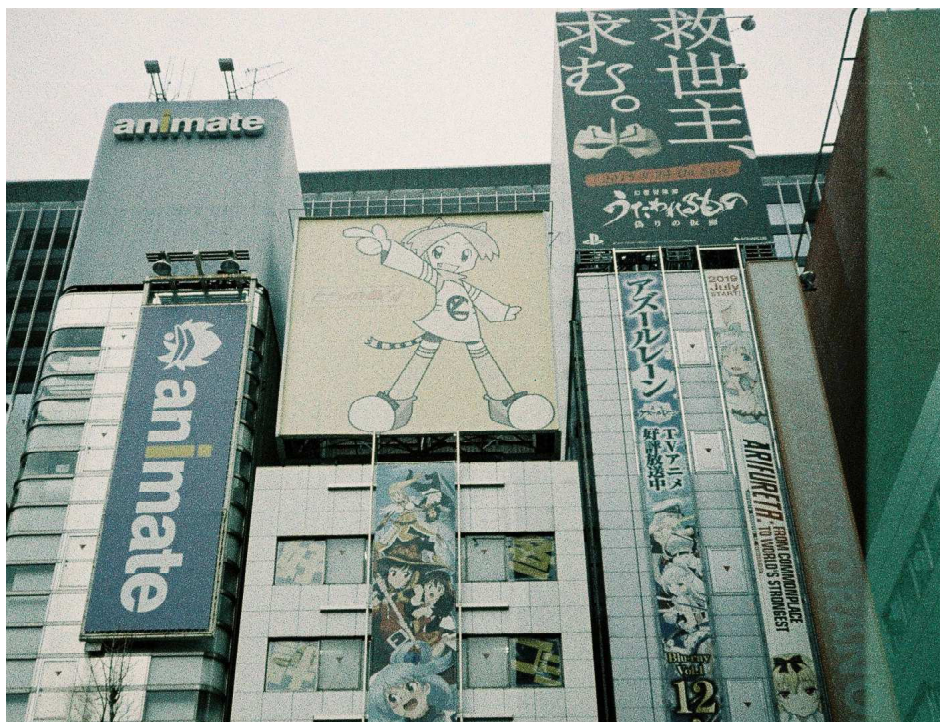
## 目 次

|                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| 前口上 & 目次（このページ）                      | 2   |
| くちえ                                  | 3   |
| lomography LOMOCHROME METROPOLIS 110 | 4   |
| lomography LOMOCHROME PURPLE 110     | 6   |
| KONICA CENTURIA 200                  | 8   |
| lomography Peacock 110を普通に現像する       | 1 0 |
| 謝辞・あとがき・奥付                           | 1 1 |

右ページ 

上：Rollei E110 + lomography LOMOCHROME METROPOLIS

下：PENTAX auto110 + lomography LOMOCHROME PURPLE



## lomography LOMOCHROME METROPOLIS 110



LOMOCHROME METROPOLISは、2019年に開発が発表されたフィルムで、同年夏からクラウドファンディングが開始された。なお、LOMOCHROMEという名称だが、フィルムとしてはリバーサルではなくカラーネガで、現像もカラーネガと同じC-41処理である。

個人的に特筆すべきは、35mm・120と並んで、110（と16mm）が用意されていた点で、2009年に110のフィルム製造が終了して10年、まさかこの時代に新フィルムが登場するとはね、とこのクラウドファンディング開始の話を聞いた時は感慨深いものがあった。

同クラウドファンディングは無事目標を達成し、2019年末くらいからリターンの発送が始まったらしい。私はクラウドファンディングには申し込んでおらず、末広町のlomography直営店に行った際に聞いてみたところ、一般発売はもうしばらくかかるような話だったのだが、実際には意外に早く、2020年1月中旬には入手することができた。

このフィルムの特徴は「イエローやグリーンの発色、低い彩度と力強いコントラスト」だそうだが、正直どうもいまいよく分からないので、まず撮ってみることにした。

このフィルムはその表記のとおり、ISO100から400の間で撮影者が自分で自由に感度を設定できる、そうだ。これもいまいよく分かん理屈だが、少なくとも110カメラではISO100か400どちらかにしか設定できない。御存知の方



もいらっしやるだろうが、110カメラでの感度設定は、パトローネ室右端のスイッチが押されるか否かで判断される。フィルム右端の"耳"の、下半分が切り欠かれていればスイッチが押されずISO400設定に、切り欠きがなければスイッチが押されISO100設定になる（[注] ごく初期の製品や、トイカメラ然とした製品にはこのスイッチがない）。METROPOLIS 110のフィルムカートリッジには切り欠きがないので、あまり深く考えず、とにかくそのまま詰めてISO100設定で撮ることにする。

今年の冬の東京は、暖かめだけれど天気が優れない日が多かった。曇った冬の日、というのは個人的に好きな天気だが、そんな日にこのMETROPOLISを、ローライE110へ詰めて持ち出し撮った結果、コントラストが低い上に赤が褪せて写る。冬の曇り空の、身に沁みるような寒さが、さらに強調されているような画になった。

なおこのMETROPOLISの110フィルム、値段は消費税抜き1000円で、同社の他の110フィルム（概ね税抜き900円）と比べても、飛び抜けて高くはない。35mmや120と比べると、フィルム1本の価格ではむしろ安くなっている。

だから、METROPOLISというフィルムをまずはお試し的に味わうのであれば、110で使うのが一番お得で手軽とも言えるわけだ。なので、このフィルムに興味のある人は、小さな110カメラをうかつに持ち出したりして、その味わいを試していただきたい。



## lomography LOMOCHROME Purple 110



こちらもlomographyの変わり種フィルムで、「世界をパープルに染め上げるサイケデリックなフィルム」だそう。前出のMETROPOLIS同様、CHROMEをうたってはいるがC-41処理のカラーネガである。ISO100-400で感度が自由に選べる、という仕様も同様。

この種のフィルムとしては、2013年2月に『LomoChrome Purple 400』が登場しており、2018年に『2019 LomoChrome Purple Film』という、1986オメガトライブのような名称でリニューアルされている（今は「2019」という文言は外されているようだ）。「新製法」というラーメンのようなキャッチフレーズとか、「推奨感度のISO400設定時の露出が改善」というちょっと微妙に何言ってるんだか分かんない説明もあったりするのだが、要はムラサキだろ、ということで、写りの想像がしやすくはある。

このフィルムも、Purple400時代から御多分に漏れず35mmと120だけで、限定で8mmや16mmも出たらしいのだが、110は当然のごとく出ていなかった。それが、2020年に入って110フィルムの併売が告知されたのであった。こちらも、2020年当初は入荷待ちのままバックオーダーだけの受付だったのだが、3月に入ったら通信販売や店頭販売もなされるようになった。ただ、METROPOLISは比較的多くのカメラ店で扱っているけれど、このPURPLEの110はlomography直営店くらいでしか店頭で見ない（現在だけかも知れないが）。通販でも買えるけれど、5本セットと、お試しにはちょっと勇気の要る本数からに

なるので、こちらも末広町の直営店で購入した。値段もMETROPOLIS同様、1本で税抜き1000円。

PENTAX auto110へ入れて撮ってみたのだが、現像してみた結果はちょっと私の想像と違っていた。ムラサキと言うか、褐色と表現した方が近い画が出てきたのだ。もっとも、私は自家現像・自家スキャンをしないので、現像の取扱店にスキャンまで頼むから、その店の機械やその設定によるものかも知れないけれど。

私はこのフィルムを詰めた時は、はいはい、パープルだねサイケデリックだね的な仕上がりになるんでしょ、まあネタで1回は使ってみただけだしあ、くらいの気持ちで撮っていたのだが、いざスキャンデータを見たら、褐色ゆえにサイケデリックとは違った感じの、ちょっと落ち着いたと言うか、METROPOLISとは違った意味で「褪せた」ような、また独特な雰囲気の出た、これちょっと面白いかも、と思ってしまったのだ。なので、ちょいと変わった趣のある面白いフィルムのなのかも知れないなど、もうちょっと試して撮ってみたくなるフィルムだったり、現状はするのである。



## KONICA CENTURIA 200



最近、期限切れのフィルムが一部カメラ店で売られることが増えてきた。そんな中、110の期限切れフィルムも出回るようになってきている。ある日、期限切れフィルムを多く扱う店のツイッターアカウントで、2種類の期限切れ110フィルムの入荷を知った。1つは富士フィルムSUPERIA200で、これは数年前、期限切れを入手して使って、同人誌のネタにもした。もう1つはコニカのCENTURIA200で、これの110は初めて見た。

さて、これが問題というか、ちょっと複雑な話になる。

以前の同人誌にも書いたけれど、コニカ（サクラ）は他のメーカーよりずっと早く、1989年に110フィルムの国内向け出荷は止めている。一方、CENTURIAという製品は、名前から何となく推察できるとおり、2000年前後から使われたごく最近の銘柄である。だから、CENTURIAと110は本来両立しない、いわばオーパーツである。

その点を踏まえ推測するにこのフィルムは、

- (1) 国内向け出荷終了後も海外向けにコニカが製造を継続していた
- (2) 他メーカーからOEM供給を受けた

のいずれか、ということに



2004年2月期限。右下には“KONICA CORPORATION”。



なる。どっちにしても興味深いところなので、さっそく購入する。

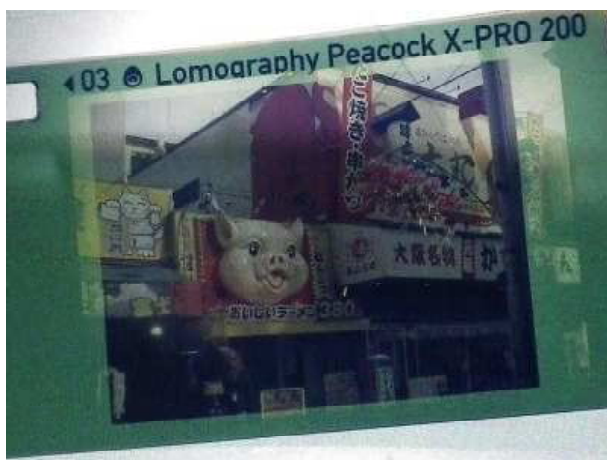
外箱は普通にコニカのデザインである。フィルムの使用期限が2004年2月だから、おそらく製造は2002年初頭で、ブランドも社名も外箱もコニカ表記なのは2003年のコニカ・ミノルタ事業統合以前の製造出荷ゆえであって、外箱には「KONICA CORPORATION」の表記もある。以前、サクラインターナショナルという素性不明なフィルムがあったが、こちらは間違いなく『コニカの製品』と見て良い。24枚撮りで、感度はISO200。製造は日本ではなく Made in Germany。どんなものか、auto110へフィルムを詰めて出かけてみた。

ラボで現像→スキャンをしてもらった画像をPC上で見る限り、期限切れ十数年後（実際に入手し使ったのは2018年末）にもかかわらず、色合いはちゃんとしている。若干粒状感があるが、これが期限切れによるものなのか元々そのようなのかは、元のフィルムを使ったことがないので判断しかねる。

現像したフィルムのコマ数表記は、上段に→2つ・下段に数字、となっている。これは富士ともコダックとも違い、以前「期限切れのアグファのフィルム」と称し販売されていたものと同一である。前述したとおりドイツ製であること、コニカがずいぶん前に110の出荷を止めていることなどを踏まえると、このフィルムはおそらくアグファのOEM、ということなのだろうと思う。2003年までアグファ＝ゲバルト社がフィルム製造していたので、状況的にも矛盾しない。



## lomography Peacock110を普通に現像する



lomographyの110フィルムのうち、Peacock110はいわゆるクロスプロセス用のフィルムで、これはフツウのカラーネガ処理（C-41／CN-16）をすることを前提としている。しかし、クロスプロセス用フィルムというのは、要はリバーサルフィルムなので、それ用の現像処理（E-6／CR-56）をしてやれば、普通のポジになる。

……ということは、lomographyのサイトにも記載されていて、「カラスライドフィルムとしてもご使用いただけます」「E6（ポジ）現像を行うと、シャープでクリアな写りを110カメラでお楽しみ頂くことができます」とは記されているし、箱にも、「C-41 OR E6 PROCESSING」と明示されている。されているのだけれど、じゃあそういう処理をどこで扱ってくれるのかということとは、例によって記されていない。ロモラボ（同社直営のラボ）ならE-6処理してくれるんじゃないかって現像に出し、結果クロスプロセス処理されてしまった、という話は以前の本に書いたけれど、そのロモラボも業務を止めてしまった。

ということで、いくつかの写真店へ扱えるかどうか聞いてみたところ、どこも受けてくれなかったのだが、横浜駅にある『カメラはスズキ』では「できるラボと取引があるのでお受けしましょう」と言ってくれた。外部ラボで、集荷も毎日というわけではないので、土日を挟んで2週間ほどかかってしまったが。現像代は1200円ほど。

仕上がりは、35mmフィルムケースに入ってやってきた。ややくすんだ色合いだったが、小さいコマに写ったポジ画像はなかなか趣深くあったのである。

新刊は110フィルムを中心としたものとなった。

ここ最近の通例として、夏はPENTAX Qの本を作るのだが、110に新フィルム登場、というニュースを聞き、やはりここはレビュー本を作らねばならぬだろう、いや作りたい、ということで110の新刊と相成った。

しかし、例の新型ウィルス騒動で、資料を漁ろうにも図書館などが軒並み閉鎖となって、カメラ方面の調べ物もできず、そしてコミケも中止、おまけに個人的な事情も重なって、フィルム中心のこのような「コビー誌的」新刊となってしまった。申し訳ない。電子書籍？配布ということで、カラーの作例なども載せてみたことに免じて、ひとつ御容赦いただきたい。

実はこのような110カメラ全般の同人誌を作るのは4年ぶり、その間に手持ちのカメラ本体の方もずいぶん増えており、また110のカメラボディやフィルムに関する本を継続して作りたいな、と考えている。

この同人誌を手にとって下さった皆様に感謝申し上げます。

ギニョ／デュアルパトローネ

謝辞 当同人誌の作成に当たって以下のサイトを参照させていただきました。  
この場を借りてお礼申し上げます。

Wikipedia <http://ja.wikipedia.org/>

lomography <https://www.lomography.jp/>

コニカミノルタ <https://www.konicaminolta.com/jp-ja/index.html>

変デジ研究所 <https://lab.hendigi.com/>

## in Pocket ⑨

発 行：デュアルパトローネ [dualpatrone@gmail.com](mailto:dualpatrone@gmail.com)

発行日：2020年5月5日 ("幻の" C98 4日目)

Web：<http://dualpatrone.tubakurame.com/>／twitter ID：@Guiniol1

この同人誌はフリー配布です。  
ただし、予告なく配布を中止する場合があります。

この同人誌のデータを個人間で授受していただくのは構いませんが、不特定多数への再配布に当たる行為（ネットへのアップロード等）は御遠慮ください。

